

LS14A

受験番号

2011 年度 甲南大学法科大学院入学試験問題

専門論文試験 刑法・刑事訴訟法

(120分)

受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は2ページまでである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は刑法と刑事訴訟法各1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 解答は、該当する科目の解答用紙を使用すること。解答用紙を誤った場合、その答案は無効となる。
5. 答案は、横書きとする。
6. 答案は、実線内の番号に従って書き進めること。
7. 答案は、黒ボールペンまたは黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された答案は、無効となる。
8. 答案を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直すこと。
9. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
10. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

専門論文試験 刑法

次の（問1）と（問2）に答えなさい。

（問1）

被告人Xは、T国からの大麻密輸入を計画したYから、その実行担当者になって欲しい旨頼まれたが、当時Xが大麻取締法違反の罪で執行猶予中の身であったことを理由に、これを断ったものの、大麻を入手したい欲求にかられ、知人のZに事情を明かして協力を求め、同人を自己の身代りとしてYに引き合わせるとともに、密輸入した大麻の1個をもらい受ける約束のもとに、その資金の一部（20万円）をYに提供した。YはZおよびWと協議して、Wを現地における買付け役、Zを運び屋としてT国に派遣し、両名は大麻1.4キログラムを携行して大阪国際空港に到着したが、税関で発覚し、逮捕された。

第1番は、Xの所為は、刑法60条、大麻取締法24条2号、4条1号、関税法111条2項・1項に該当するとして懲役1年に処したのに対して、弁護人から控訴がなされた。弁護人の控訴趣意は、Xの所為は幫助犯に該当し、正犯と認めることはできないのに、Xに対し共同正犯の責任を負わせている原判決には誤りがあるというものであった。

弁護人のこの主張に対して、意見を述べよ。

（問2）

次の語句について、簡単に説明せよ。

①かすがい現象

②焼損

以上

専門論文試験 刑事訴訟法

下記問題 2 題とも解答せよ。

第 1 問

【設問】

下記設例で、押収手続は適法か。

【設例】

警察官は、かねて覚せい剤密売と自己使用の疑いのある暴力団 K 組の組員甲が、隣人である被害者 V と騒音でもめたときに、包丁を持ち出して「殺すぞ。おれは、暴力団にいるんだぞ」と述べたと聞きつけた。V の事情聴取では、「まるで酒に酔っているみたいだった。ろれつも回っていない」という。警察官は、これを脅迫事件と捉えて裁判官から逮捕状の発付を得た。

警察官ら 5 名は、内偵捜査によりいつも午後 8 時には甲が帰宅しているとの情報を踏まえて、午後 8 時 15 分に自宅に赴いた。ところが、甲の妻乙が、「今、携帯で連絡があって、ちょっとコンビニによってビールを買って帰るから、30 分ほど遅れるとってます。ですから、もう間もなく戻ると思います」ということであった。

警察官は、妻に逮捕状を示し「御主人は帰り次第身柄を確保しますが、混乱を避けるため、あらかじめ自宅内の捜索をします」と説明して、甲方の捜索を開始した。トイレの棚に、「K 組」の名称、K 組の代紋が印刷された封筒があった。その中に白色透明の結晶がはいったビニール袋 5 個があった。警察官らは「おそらく覚せい剤だ」と確認しあった上で、これを押収した。後に、鑑定の結果、確かに覚せい剤であると判明した。

押収が終わる頃に、甲が帰宅したので令状を示して逮捕した。

第 2 問

【設問】

下記設例で、検察官は、どうすべきか。

【設例】

警察官甲と乙は、通り魔事件であやうく一命を取り留めた殺人未遂事件の被害者 V が退院したので、事件現場に連れて行った。事件現場で、(1) 犯人が飛び出してきた場所、(2) 最初に刺された場所、(3) 転んだ場所を指で指させて写真を撮った。各写真を貼った台紙には、(1) 「被害者 V は『ここから犯人が包丁を手にして飛び出したのです』と説明した」と記載した。以下、(2) の写真には、「ここで、お腹をいきなり刺されたのです」、(3) の写真には、「そのあと転んで倒れたのはこの場所です」との記載がある。

検察官は、後に、この写真と台帳 3 枚を証拠調べ請求した。「被害を受けた状況」が立証趣旨である。被告人・弁護人は無罪を主張しているので、証拠とすることには反対した。